

1. 学校の教育目標

仙台保健福祉専門学校は、学校教育法に基づき、医療及び教育・社会福祉の分野における職業と、
 实际生活に必要な専門的知識・技術・技能等の能力と教養を持ち、社会に貢献できる人材育成を目的
 とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 「専門教育」と「人間教育」の充実

- ① 国家資格取得および各種検定試験合格率の向上。
- ② 豊かな人間性と教養を身につけた、コミュニケーション能力を持つ社会人の育成。
- ③ 学生生活や実習等を通して、挨拶の励行・提出期限の厳守等基本的な生活習慣の定着を図る。

(2) 学生募集活動の強化と学費納入等に関するきめ細かな対応

- ① 学生募集活動を強化し、学校運営の安定化を図る。
- ② 奨学金を利用する学生が増加傾向にある中で、納入状況を把握しながら早めの対応を心掛ける。
 学費等納入計画については、経済的理由で学修を途中断念することのないよう保護者を含め丁寧
 な対応を心掛ける。また、日本学生支援機構奨学金の返還延滞については社会的にも問題提起さ
 れているところであり、奨学金制度の返還についても指導を行う。

平成29年3月末 本校の延滞率 5.8% (専修学校全国平均 8.7%)

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

| 評価項目 | 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1 |
|--|---------------------------------------|
| 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か) | 4 |
| 学校における職業教育の特色は何か | 4 |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 |
| 学校の理念、目的、人材育成像、特色、将来構想などが学生保護 者等に周知されているか | 4 |
| 各科の教育目標、人材育成像は、科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか | 4 |

① 課題

本校は、医療専門課程の「理学療法科」「作業療法科」「歯科衛生科」、教育・社会福祉専門課程
 「介護福祉科」「こども科」の5科を設置している。いずれの職種も「多くの人と関わりながら、
 人と接する専門職」であり、社会的ニーズも高い。国家試験に合格することはもちろんのこと、専
 門職としての使命感や目的意識を持ち、知識・技術、コミュニケーション能力等を身につけた、社
 会のニーズに応える人材育成が使命であると考えている。

一方で、学生がイメージする専門職そして職種について、入学後学びを深めていく中で迷いや不
 安を感じて退学することもある。悩みや不安を抱える学生は少なくなく、そのような学生には担任

を中心に早めの対応が必要であると感じる。また、保護者との連携を図り、各科や学校として組織的な取組みを確立することが課題となる。

② 今後の改善方策

職業実践専門課程として各業界のニーズに応じた教育目標や人材育成をより明確にし、企業と連携した教育活動を実践することで具現化に取り組む。学生一人ひとりの性格や特性を把握しながら、保護者との連絡を密に取り、進級・卒業・就職に繋げていく。また、学生生活アンケート等アセスメントを活用し、学生の変化を把握して退学者を出さない指導を心掛ける。

③ 特記事項

入学前のオープンキャンパスや入学後のオリエンテーション・保護者会等で、教育目標や育成人材像等を説明している。特に、国家試験に合格するための日々の学習に加え、「人と接する専門職」に就くためのコミュニケーション能力育成など、志の高い職業人輩出を目指して努力している。

(2) 学校運営

| 評価項目 | 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1 |
|--|-----------------------------------|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 4 |
| 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 |
| 人事、給与に関する制度は整備されているか | 4 |
| 教務、財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか | 4 |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 3 |
| 教育活動に対する情報公開が適切になされているか | 4 |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 |

① 課題

教育活動に関する情報公開は、ホームページや広報物で行っている。また、体験入学会等での説明を通じて高校生および参加者に行っている。適切な対応を継続して行うことが必要である。

情報システム化については、教職員それぞれが専用のパソコンを持ち、日々の業務に使用しているが、情報セキュリティと、容易に使える効率的なシステムの構築を学園本部との連携で進めたい。

② 今後の改善方策

ホームページの充実とタイムリーで閲覧者にわかりやすい情報公開を目指す。広報担当者と情報の共有そして連携強化を図り対応していく。ブログ等に関しては、各科毎に週一回程度、更新している。

③ 特記事項

グループウェアを使用し、起案や各種申請においては電子決済を行い、一定の業務効率化につながっている。

(3) 教育活動

| 評価項目 | 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1 |
|--|---------------------------------------|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか | 4 |
| 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| 科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 |
| 関連分野の企業関連施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われているか | 4 |
| 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか | 4 |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか | 3 |
| 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 |
| 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 3 |
| 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる用件を備えた教員を確保しているか | 3 |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか | 3 |
| 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 |
| 職員の能力開発のための研修が行われているか | 4 |

① 課題

5科すべてが厚労省養成施設としての指定を受けており、指定に則ったカリキュラムで教育が実践されている。カリキュラムや進級・卒業判定基準等については、学則や学生便覧を通じて学生に周知している。また、経済的な理由で退学を余儀なくされる者もあり、進学時に家族間での相談が不可欠であり、ホームページやオープンキャンパス等において、正確で分かりやすい情報提供を行うことが求められる。

② 今後の改善方策

職業教育に関する外部関係者からの評価のあり方について、評価基準を策定し明確化させる。

③ 特記事項

特になし

(4) 学習成果

| 評価項目 | 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1 |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 就職率の向上が図られているか | 4 |
| 資格取得率の向上が図られているか | 4 |
| 退学率の低減が図られているか | 3 |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 |

① 課題

平成30年度の国家試験合格率は、理学療法科76.0%、作業療法科100%、歯科衛生科100%、介護福祉科85.7%であった。引き続き、就職に直結する国家試験合格率の維持・向上を課題として取り組んでいく。各科において、安定的な高い合格率を達成するための指導法の確立を目指す。

卒業生の教育への参加は、学校祭等での在校生向け講話などを通じて実施しているが、キャリア形成に結びつく卒後教育や評価の体制は整備されておらず、今後の課題である。

② 今後の改善方策

本校は、全員受験（国家試験）・全員卒業・全員合格（国家試験）を目標に教育活動を実践し、専門分野に就職することを目指しており、国家試験合格率向上のための補習や特別対策授業等を実施している（夏季・冬季の長期間の休みに、学生一人ひとりが各々の弱点を克服できる特別対策授業等）。その中で、理学療法科では個人の状況を的確に把握し、担当教員制で個人指導を実施する。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

| 評価項目 | 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1 |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 進路就職に関する支援体制は整備させているか | 4 |
| 学生相談に関する体制は整備させているか | 4 |
| 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の生活環境への支援は行われているか | 4 |
| 保護者と適切に連携しているか | 4 |
| 卒業生への支援体制はあるか | 3 |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4 |
| 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 |

① 課題

学生への経済的支援は各種奨学金の案内等を通じて、一定の対策は講じている。また、生活支援についても、寮の設置や、スクールバスの運行等を行っている。しかしながら、家庭の経済的な理由でアルバイトが避けられない学生や、そのために休学する学生もおり、よりきめ細かな支援策が求められている。

② 今後の改善方策

各担任による学生との個人面談をはじめ、保護者との連絡を密にして、学生の抱える問題を早期に把握して、可能な支援策を提案していく。学生に対する経済的支援の一つとして、学費分納に関する情報を提供するなどして、退学率低減の一助とする。

今後は、社会人等の学び直しにも対応することが必要であると思われる。入試には大学生および社会人の制度を設けているが、学費等における支援制度等の構築を検討する。

③ 特記事項

出席状況や成績に関しては定期的に保護者へ情報提供を行っている。電話連絡やメール等を活用

して、担任と保護者間での連携は取られている。また、文部科学省の専修学校専門課程修学支援実証研究事業に採択され、学生の経済的支援を充実させている。

歯科衛生科では、学生に奨学金制度を運用している医療法人徳真会のスタッフ向けブラッシュアップ講習会を学内施設にて実施している。

学校敷地内に学生駐車場を設置し、自家用車での通学ができるよう整備を行った。(H30)

学生のサークル活動として、軟式野球、軽音部、バスケットボールが行われている。

その他、学生の要望から、パン・飲料品等の自動販売機を設置し、学生の需要も高い状況である。

(6) 教育環境

| 評価項目 | 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1 |
|--|-----------------------------------|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 |
| 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 3 |
| 防災に対する体制は整備されているか | 3 |

① 課題

学外実習は必須の教育内容であり、十分な体制が整備されている。

防災や備蓄については事務局の協力の下、適切に行っている。学生個人の備蓄も促し、避難場所についても学生個人に調べさせ、情報を学校に提出させるなどの取組みも行っている。災害時における学生個人との連絡方法については、携帯電話が一般的と考えるが、通信困難等の問題に対する二次的な対応策の整備も必要である。

② 今後の改善方策

大地震発生時には、電源をはじめ通信障害等の問題が発生する可能性があり、強固なネット環境の整備を行う必要がある。また、地震だけでなく、火災や豪雨に対する計画も見直しが必要である。

校舎建築から 10 年を迎え、教育機器等も修理・交換が必要不可欠となっている。必要な設備・器具については、計画的な更新を行うよう予算的な措置を講じる。

③ 特記事項

年度初めに、定期的に避難訓練の実施と防災講話を行っている。

(7) 学生募集

| 評価項目 | 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1 |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 学生募集活動は、適性に行われているか | 4 |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4 |
| 学納金は妥当なものとなっているか | 3 |

① 課題

介護福祉科については、平成 31 年度から募集停止とした。介護分野の状況を注視しつつ今後については改めて検討を行う。こども科においては、今年度の広報活動の中で新たな取組みを行い出願者増に繋がっている。特色ある積極的な広報活動を展開することが必要である。

② 今後の改善方策

引き続き、施設等との産学連携も視野に学生募集につなげる。

③ 特記事項

本校教員による高校訪問を実施し、独自の広報活動を行う。また、サポート制度として特待生(学費免除)試験をA0出願者は2回受験できるように変更した。また、平成28年度より(株)ユーキャンと協働で介護福祉士実務者研修のスクーリング(介護福祉士国家試験受験要件として実務経験ルートは必須)を社会人向けに展開している。

(8) 財務

| 評価項目 | 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1 |
|--------------------------|-----------------------------------|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| 財務について会計監査が適当に行われているか | 4 |
| 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

① 課題

現時点において財務的に大きな問題はないが、経年劣化による建物内の改修が必要と思われる部分もあり、ある程度の改修費用が必要となる。

② 今後の改善方策

国家試験合格率の向上、広報活動の社会人等への拡大などを通じて、入学生の増加を図ることが財務基盤の安定化に必要と考えている。

③ 特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守

| 評価項目 | 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1 |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 4 |
| 自己評価結果を公開しているか | 4 |

① 課題

本校の教育は厚労省の養成課程であり、法令・設置基準等の遵守や適正な運営を行っている。

一方、自己評価については、実施後の振り返りや課題改善への取組を充実させるとともに、公表を行う上での組織体制も未整備であり、課題とするところである。

② 今後の改善方策

学校関係者評価委員会の評価をもとに、改善に取り組むとともに積極的な公表を行う。

将来的には第三者評価を視野に検討する。

③ 特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1 |
|---|---------------------------------------|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 4 |
| 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 |
| 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 4 |

① 課題

介護福祉科・こども科では定期的に学生のボランティア活動を行っている。その他の科でも積極的な参加を促している。

② 今後の改善方策

ボランティア要請情報を公開するとともに、学生の活動への相談等を行う。

③ 特記事項

2018東北・みやぎ復興マラソンの救護センターのボランティアスタッフとして、理学療法科と作業療法科の学生が48名（2017年25名）、教員が1名参加。今後も可能な限り協力していく予定である。